
B-1
G H=99.61m
Dep= 4.07m
B-2
G H=98.64m
Dep=18.10m
B-3
G H=99.47m
Dep= 4.14m
B-4
G H=98.89m
Dep= 4.04m
90.000
130.000
X=120.600
X=120.500
X=120.400
Y=89.000
Y=89.100
Y=89.200
Y=89.300
凡例
●：機械ボーリング
：推定盛土範囲
（国土地理院地図より）

ボーリング柱状図

調　査　名　令和8年度　学校給食共同調理場再編事業地質調査業務委託

ボーリングNo

事業・工事名

シートNo

ボーリング名	B－1	調査位置	いわき市好間工業団地　地内					北緯	37° 4’ 56.9817”
発注機関	いわき市教育委員会			調査期間	令和 8年 9月 17日 ～ 8年 9月 17日			東経	140° 50’ 04.1388”
調査業者名	株式会社　地質基礎 電話（0246－88－8810）	主任技師	加藤　一範	現場代理人	近藤　恭生	コア鑑定者	近藤　恭生	ボーリング責任者	草野　茂治
孔口標高	99.61m	角度	180° 上 90° 下 0° 0°	方向	北 0° 270° 西 90° 東 180° 南	地盤勾配	鉛直 水平0° 90° 0°	使用機種	
総掘進長	4.07m								

試錐機	東邦製D0－D型	ハンマー落下用具	半自動落下装置
エンジン	ヤンマー製TF－90型	ポンプ	東邦製BG－4型

標尺 (m)	標高 (m)	層厚 (m)	深度 (m)	柱状図	土質区分	色調	相対密度	相対稠度	記事	孔内水位(m)／測定月日	標準貫入試験 深度 (m)	10cmごとの打撃回数 0～10	10～20	20～30	打撃回数／貫入量 (cm)	N値 0 10 20 30 40 50 60	原位置試験 深度 (m)	試験名および結果	試料採取 深度 (m)	試料番号	採取方法	室内試験（　）	掘進月日
	98.96	0.65	0.65		盛土（砂礫）	黄褐灰			0.2mまで砕石。以深、砂礫主体。φ40～50mm程の亜円礫点在。		1.05	50			50／10	150							
	98.81	0.15	0.80		弱風化砂岩	黄褐灰			全体に風化し、黄褐灰色を呈する。		1.15	50			50／10	150							
1											2.05								2.15	C1-2		密度、圧縮強度	
2					砂岩	暗灰			1mまで無水掘進のため、礫状コア。以深、新鮮な岩で硬質。L=10～60cm程の棒状コアにて採取。		2.15	50／8			50／8	188			2.40				
3											3.00												
4	95.54	3.27	4.07								3.08	50／7			50／7	214							9／17
											4.00												
											4.07												

ボーリング柱状図

調　査　名　令和8年度　学校給食共同調理場再編事業地質調査業務委託

ボーリングNo

事業・工事名

シートNo

ボーリング名	B－2	調査位置	いわき市好間工業団地　地内			北緯	37° 4’ 53.7712”
発注機関	いわき市教育委員会			調査期間	令和 8年 9月 4日 ～ 8年 9月 14日	東経	140° 50’ 09.1312”
調査業者名	株式会社　地質基礎 電話（0246－88－8810）	主任技師	加藤　一範	現場代理人	近藤　恭生	コア鑑定者	近藤　恭生	ボーリング責任者	草野　茂治
孔口標高	98.64m	角度	180° 上 90° 下 0° 0°	方向	北 0° 270° 西 90° 東 180° 南	地盤勾配	鉛直 水平0° 90° 0°	使用機種	試錐機	東邦製D0－D型	ハンマー落下用具	半自動落下装置
総掘進長	18.10m								エンジン	ヤンマー製TF－90型	ポンプ	東邦製BG－4型

標尺 (m)	標高 (m)	層厚 (m)	深度 (m)	柱状図	土質区分	色調	相対密度	相対稠度	記事	孔内水位(m)／測定月日	標準貫入試験 深度 (m)	10cmごとの打撃回数 0～10	10～20	20～30	打撃回数／貫入量 (cm)	N値	原位置試験 深度 (m)	試験名および結果	試料採取 深度 (m)	試料番号	採取方法	室内試験（　）	掘進月日
1					盛土（砂礫）	褐灰～褐	中位の～密な		GL-0.10mまで表土。 以深、φ20～80mmの亜円礫主体の盛土。 粒径不均一。含水量中位。 シルト分を少量混入。 マトリックスはシルト混り砂主体。		1.15	3	13	16	32／30	32			1.15 1.45	2P-1		PH	
2											1.45 2.15	6	5	5	16／30	16							
3											2.45 3.15	8	7	7	22／30	22							9／4
4											3.45 4.15	5	4	3	12／30	12							
5	93.19	5.45	5.45								4.45 5.15	14	11	10	35／30	35							
6					盛土（礫混じり砂）	褐～暗褐灰	緩い～中位の		含水中位。粒径不均一。 礫混り砂主体の盛土。 マトリックスはシルト質砂主体。 GL-7.9～8.0m間、礫混入少ない。 全体にシルト分混入多い。 GL-7.85mにて、自然水位確認。 GL-10.8m以深、シルト分混入多く、含水量高位。 φ50mm程度の亜円礫混入する。		5.45 6.15	5	4	7	16／30	16							
7											6.45 7.15	4	4	4	12／30	12							
8										9/10 7.85	7.45 8.15	4	4	3	11／30	11							9／10
9											8.45 9.15	3	3	3	9／30	9			9.15	2P-9		物理	9／11
10											9.45 10.15	4	3	3	10／30	10			9.45				
11											10.45 11.15	4	5	5	14／30	14			11.15	2P-11		物理	
12	85.99	7.20	12.65								11.45 12.15	4	6	7	17／30	17			11.45				
13					強風化砂岩	褐灰			土砂状コアにて採取。 風化進行し、粘土状を呈す。 固結度非常に弱く、指圧でつぶれる程度の硬さ。 GL-12.65～14.65m、φ50m程度の亜円礫混入する。		12.45 13.15	5	6	7	18／30	18							
14											13.45 14.15	6	6	9	21／30	21							
15	83.64	2.35	15.00								14.45 15.15	24	26／6		50／16	94							
	82.99	0.65	15.65		弱風化砂岩	褐灰			全体に褐色を呈するが固結良い。 短棒状コアにて採取。 GL-15.40m～15.55m、硬砂岩を挟む。		15.31 16.05	50／5			50／5	300							
16											16.10 17.05	50／8			50／8	188			16.65 16.90	C2-16		密度 圧縮強度	
17					砂岩	暗青灰			新鮮な岩。 棒状～短棒状コアにて採取。 固結度良好で、ハンマーで割れる程度の硬さ。		17.13 18.00	50			50／10	150							9／14
18	80.54	2.45	18.10								18.10												

ボーリング柱状図

調　査　名　令和8年度　学校給食共同調理場再編事業地質調査業務委託

ボーリングNo

事業・工事名

シートNo

ボーリング名	B－3	調査位置	いわき市好間工業団地　地内					北緯	37° 4’ 54.0696”
発注機関	いわき市教育委員会			調査期間	令和 8年 9月 2日 ～ 8年 9月 3日			東経	140° 50’ 03.8810”
調査業者名	株式会社　地質基礎 電話（0246－88－8810）	主任技師	加藤　一範	現場代理人	近藤　恭生	コア鑑定者	近藤　恭生	ボーリング責任者	草野　茂治
孔口標高	99.47m	角度	180° 上 90° 下 0° 0°	方向	北 0° 270° 西 90° 東 180° 南	地盤勾配	鉛直 水平0° 90° 0°	使用機種	試錐機：東邦製D0－D型　ハンマー落下用具：半自動落下装置
総掘進長	4.14m								エンジン：ヤンマー製TF－90型　ポンプ：東邦製BG－4型

標尺 (m)	標高 (m)	層厚 (m)	深度 (m)	柱状図	土質区分	色調	相対密度	相対稠度	記事	孔内水位(m)／測定月日	標準貫入試験 深度 (m)	10cmごとの打撃回数 0～10	10～20	20～30	打撃回数／貫入量 (cm)	N値 0 10 20 30 40 50 60	原位置試験 深度 (m)	試験名および結果	試料採取 深度 (m)	試料番号	採取方法	室内試験（　）	掘進月日
	98.67	0.80	0.80		盛土（砂礫）	褐灰			GL-0.05mまでアスファルト。 φ20～80mmの亜円礫や岩片（砕石）主体。		1.05	13	26	11／4	50／24	63							
1	97.97	0.70	1.50		弱風化砂岩	褐灰			1mまで無水掘進のため、礫状コア。 以深、所々褐色を帯びるが固結良い。短棒状～棒状コアにて採取。		1.29 2.05	37	13／2		50／12	125							9／2
2											2.17 3.05	37	13／3		50／13	115							
3					砂岩	暗青灰			短棒状～棒状コアにて採取される。 固結度良好でハンマーで割れる程度の硬さ。 GL-2.50mまで、亀裂発達し、風化褐色を呈す。 GL-3.50～3.60m間、硬砂岩を挟む。		3.18 4.05	50／9			50／9	167			3.70 3.90	C3-3		密度 圧縮強度	
4	95.33	2.64	4.14								4.14												9／3

ボーリング柱状図

調　査　名　令和8年度　学校給食共同調理場再編事業地質調査業務委託

ボーリングNo

事業・工事名

シートNo

ボーリング名	B－4	調査位置	いわき市好間工業団地　地内					北緯	37° 4’ 53.8758”
発注機関	いわき市教育委員会			調査期間	令和 8年 9月 24日 ～ 8年 9月 24日			東経	140° 50’ 07.2902”
調査業者名	株式会社　地質基礎 電話（0246－88－8810）	主任技師	加藤　一範	現場代理人	近藤　恭生	コア鑑定者	近藤　恭生	ボーリング責任者	草野　茂治
孔口標高	98.89m	角度	180° 上 90° 下 0° 0°	方向	北 0° 270° 西 90° 東 180° 南	地盤勾配	鉛直 水平0° 90° 0°	使用機種	試錐機	東邦製D0－D型	ハンマー落下用具	半自動落下装置
総掘進長	4.04m								エンジン	ヤンマー製TF－90型	ポンプ	東邦製BG－4型

標尺 (m)	標高 (m)	層厚 (m)	深度 (m)	柱状図	土質区分	色調	相対密度	相対稠度	記事	孔内水位(m)／測定月日	標準貫入試験 深度 (m)	10cmごとの打撃回数 0～10	10～20	20～30	打撃回数／貫入量 (cm)	N値 0 10 20 30 40 50 60	原位置試験 深度 (m)	試験名および結果	試料採取 深度 (m)	試料番号	採取方法	室内試験（　）	掘進月日
	98.19	0.70	0.70		盛土(砂礫)	黄褐灰			0.2mまで砕石。以深、砂礫主体。全体に締まっている。														
1	97.49	0.70	1.40		弱風化礫岩	黄褐灰			所々、褐色を帯びる。マトリックス流出のため、礫状コア。		1.15	50			50／10	150							
2	96.89	0.60	2.00		礫岩	黄褐灰～暗青灰			φ20～40mm程の亜円礫混入。マトリックス流出のため礫状コア。		1.25 2.00	50			50／10	150							
3					砂岩	暗灰			新鮮な岩で硬質。 ハンマー強打で折れる程度の固結度。 L=35～90cm程の棒状コアにて採取。 逸水なし。		2.10 3.00	50／8			50／8	188							
4	94.85	2.04	4.04								3.08 4.00	50／4			50／4	375							9／24
											4.04												